

地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域DX促進活動支援事業）
地域DX推進モデル策定実証事業

DX自己診断説明会

2022年7月25日

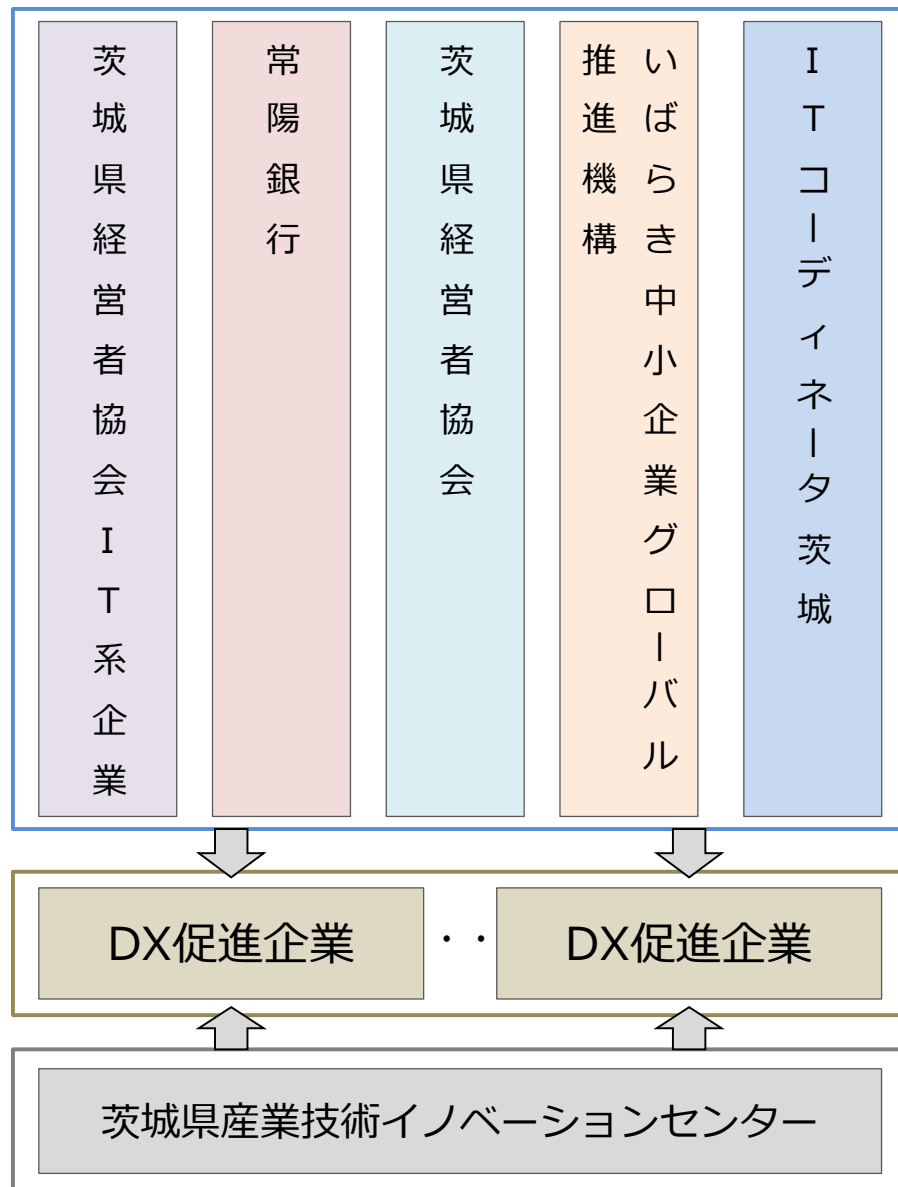
特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

特定非営利活動法人 ITコーディネータ茨城

特定非営利活動法人 長野県ITコーディネータ協議会

事業説明

(1) 中小企業のDX促進を関係組織(*1)が連携して支援します



■ 支援コミュニティ(*1) (茨城県)

- ・ ITコーディネータ茨城
地域まとめ、伴走支援
- ・ いばらき中小企業グローバル推進機構
保有支援策の紹介、事業後援
- ・ 茨城県経営者協会
企業紹介、事業後援
- ・ 常陽銀行
伴走支援協力、企業紹介
- ・ IT系企業
IT技術相談、マッチング支援

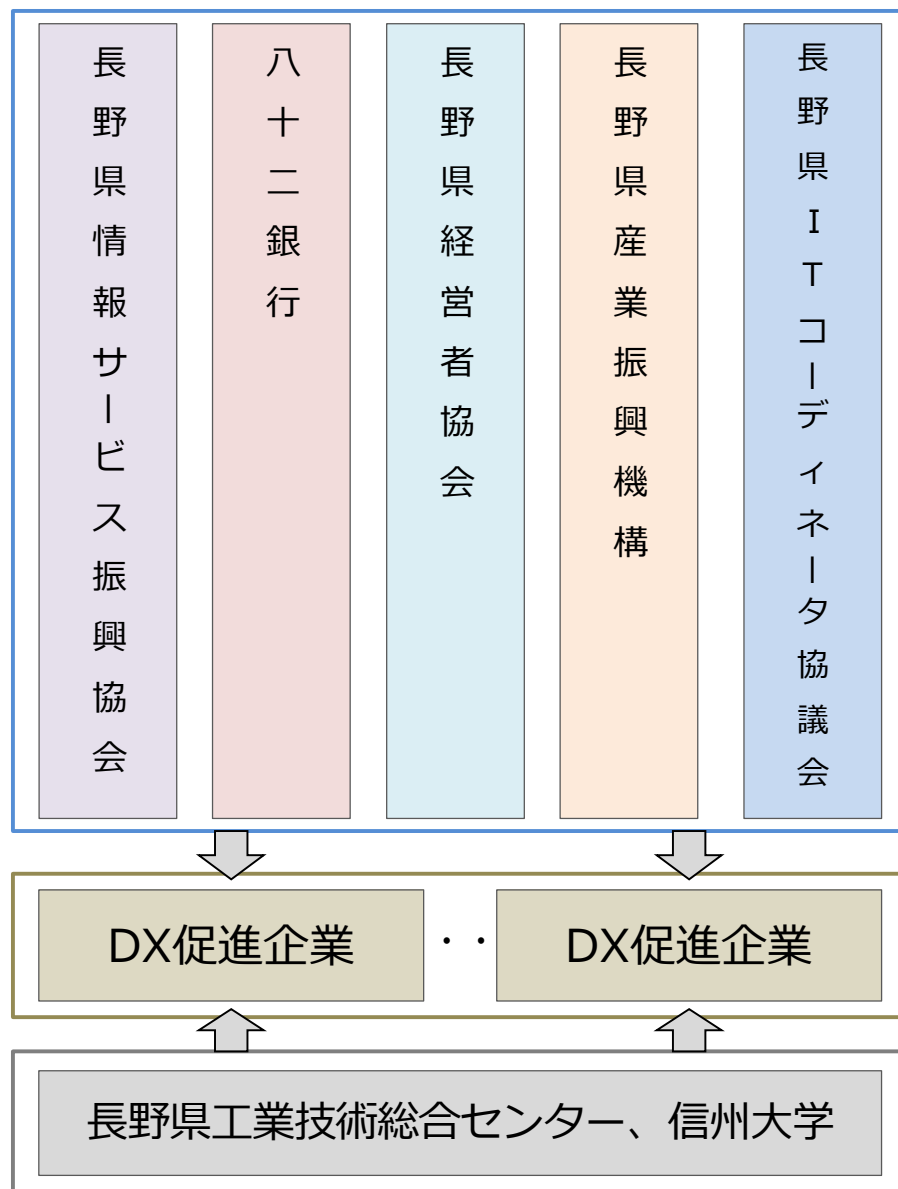
■ DX促進企業

- ・ 県内中小企業 12社を予定

■ 協力機関(*1)

- ・ 茨城県産業技術イノベーションセンター
技術相談、実証試験の協力

(1) 中小企業のDX促進を関係組織(*1)が連携して支援します



■ 支援コミュニティ(*1) (長野県)

- ・ 長野県ITコーディネータ協議会
地域まとめ、伴走支援
- ・ 長野県産業振興機構
保有支援策の紹介、事業後援
- ・ 長野県経営者協会
企業紹介、事業後援
- ・ 八十二銀行
伴走支援協力、企業紹介
- ・ 長野県情報サービス振興協会
IT技術相談、マッチング支援

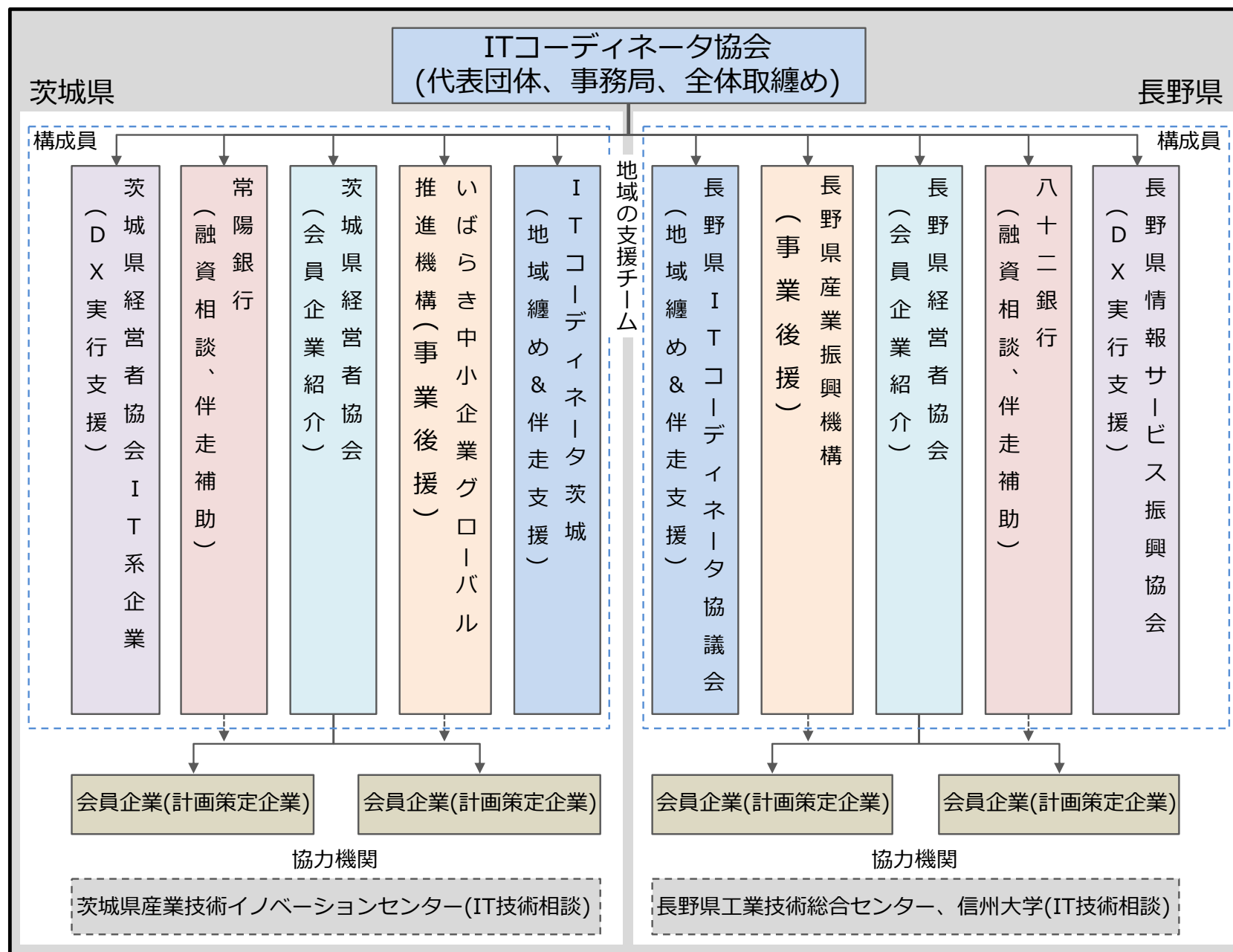
■ DX促進企業

- ・ 県内中小企業 4社を予定

■ 協力機関(*1)

- ・ 長野県工業技術総合センター、信州大学
技術相談、実証試験の協力

2.全体支援コミュニティの紹介



3.支援内容の詳細

DX推進において

中小企業が立ち止まる

ステージ毎に支援策 を設置

① : 地域企業のDX推進に向けた支援活動

② : DX診断とアドバイス

③ : 地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援

④ : 地域企業とソリューション提供事業者とのマッチング支援

ステージ1

DXに興味はあるが。。。

- ・DXが何かを理解してない
- ・まだ始められない



ステージ2

DXを理解しているが。。。

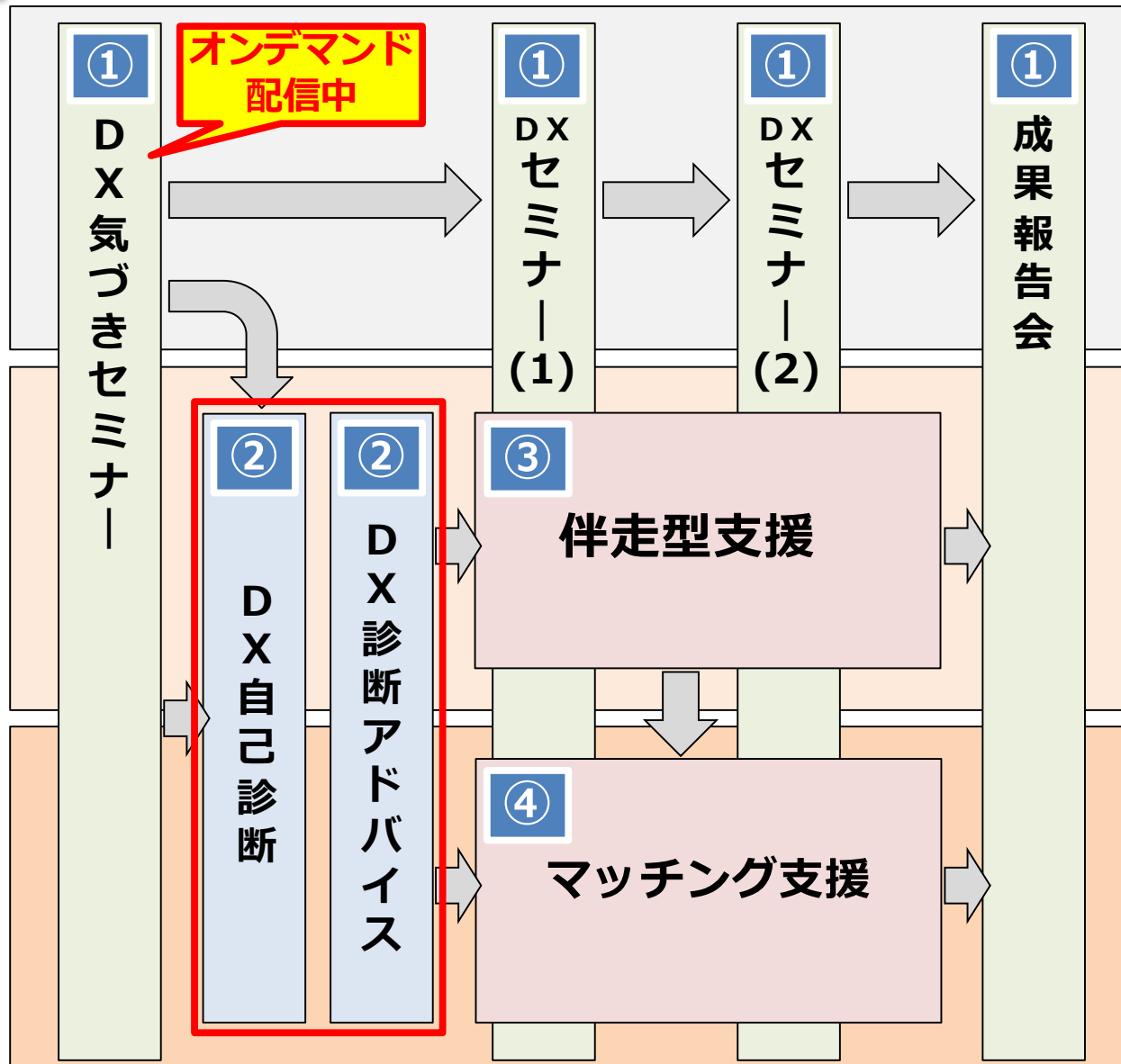
DXの進め方
がわからない



ステージ3

DX計画を進めているが。。。

デジタルツール
がわからない

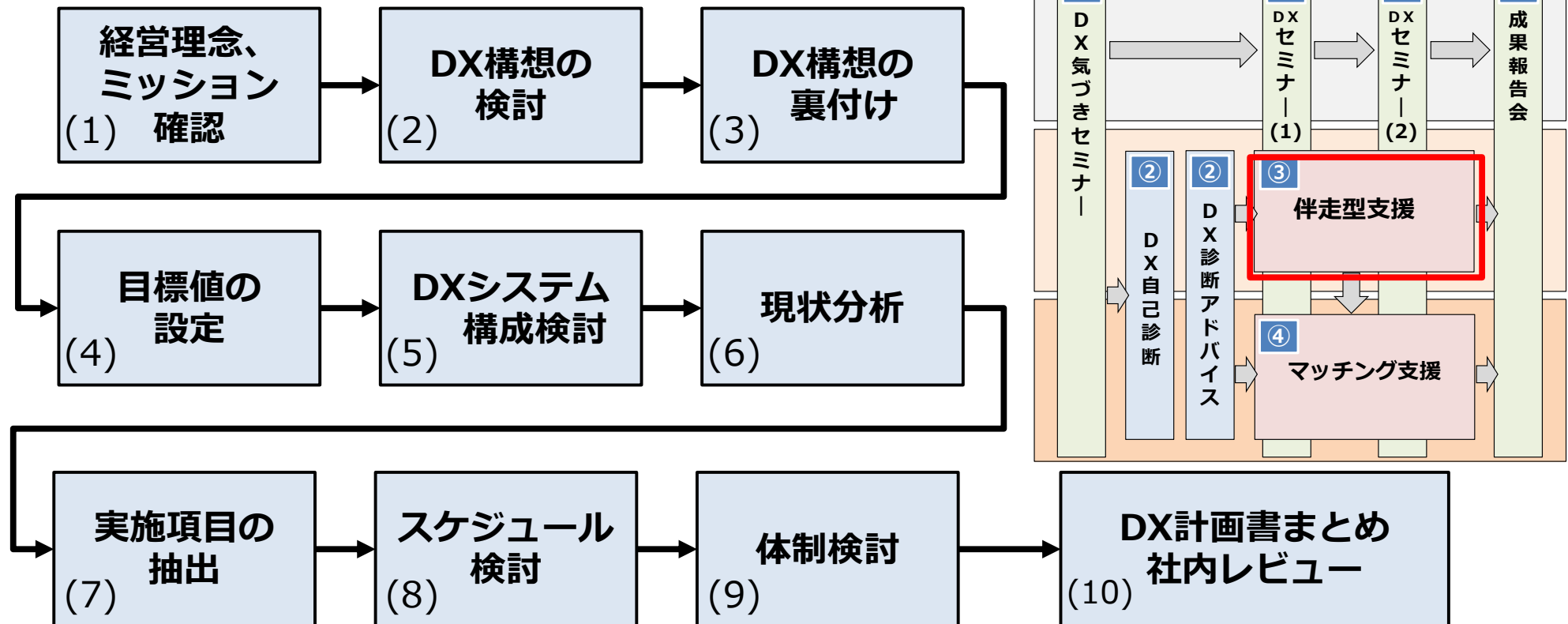


4.スケジュール

No.	実施項目	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	DX気づきセミナー	◆	◆ 7/15(7/20～8/5は映像配信)							
2	DX自己診断説明会	◆	◆ 7/25(7/26～8/5は映像配信)							
	DX自己診断	◆	◆ 7/25～8/19							
	DX診断アドバイス		◆	◆ 8/1～9/2						
3	DXセミナー(1)			◆ 9/12						
4	伴走支援			◆	◆ 9/12～2/17				◆	
5	マッチング			◆	◆ 9/12～2/17				◆	
6	DXセミナー(2)					◆ 11/14	◆ (11/14～12/31は映像配信)			
7	成果報告会									◆ 3/2

伴走型支援の概要

■ 伴走支援(10回支援)の各回の内容



■ 伴走支援に参加する構成員、協力機関の役割と参加回について

- | | | |
|----------|--------------|---------------|
| ・ ITC組織 | ： 伴走支援リーダ、 | 参加回数(全回) |
| ・ 金融機関 | ： 伴走支援補助、 | 参加回数(全回) |
| ・ 産業支援機関 | ： DX以外の相談対応、 | 参加回数(必要に応じて) |
| ・ 商工団体 | ： 企業フォロー、 | 参加回数(必要に応じて) |
| ・ ITベンダー | ： DXシステムの相談、 | 参加回数((5),(8)) |
| ・ 研究機関 | ： 技術試験や研究相談、 | 参加回数(必要に応じて) |

伴走型支援の概要

■ 伴走支援対象企業の条件

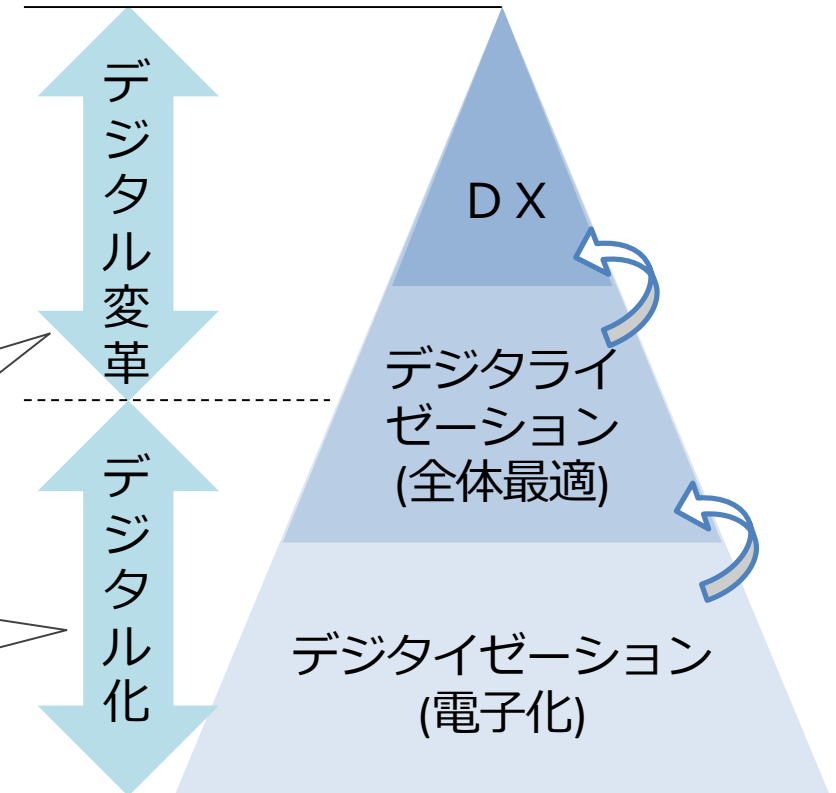
①DXを見据えた
「デジタイゼーション」
「デジタルイゼーション」
の計画書でもOKです

■DX(デジタル変革)とは

- ・目的：競争上優位性の確立
- ・手段：デジタル活用、ビジネスモデル創出
- ・取り組み方：目標達成型アプローチ

■デジタル化とは

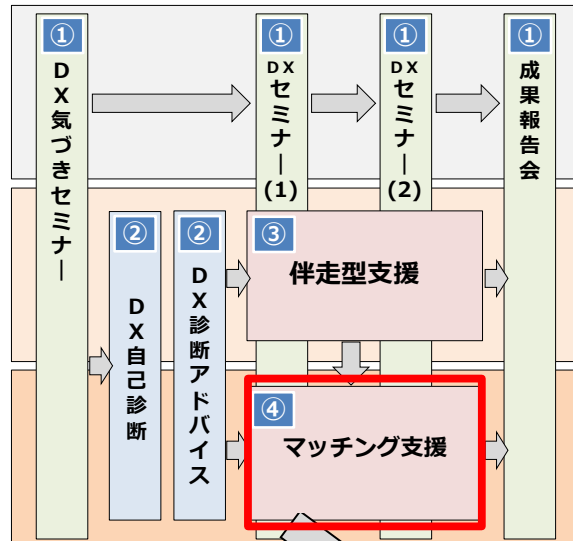
- ・目的：生産性向上
- ・手段：電子化、全体最適
- ・取り組み方：課題解決型アプローチ



②伴走支援におけるご参加者は経営者と担当者の2名以上の体制で
お願いします（経営者だけ、担当者だけはご遠慮ねがいます）

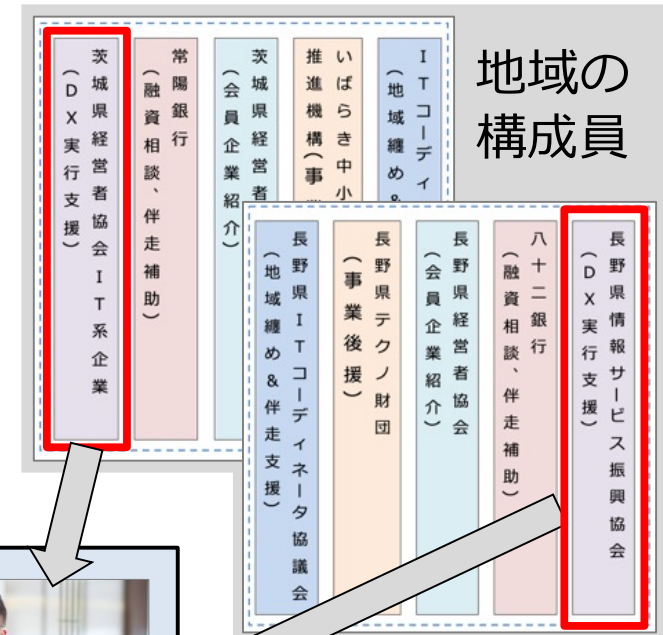
③10回の支援を必ず受けて下さい
（支援回数が10回に満たない内容となる場合は相談させて下さい）

マッチング支援の概要



マッチング支援のポイント

- 地域企業が悩むデジタル化について**様々な場面**で対応する
- 専門的知識とノウハウを持つ**ITベンダー**が対応する
- 中小企業の実態を把握する**ITコーディネータ**が支援する



- ・ DXセミナー
- ・ DX自己診断
- ・ 中間報告会
- ・ 伴走型支援 等でデジタルツールに関する課題を抽出 (様々な場面で対応)



IoT, AI, XR, 画像解析等のデジタルツールソリューションを保有するITベンダー (専門的知識・ノウハウを持つ)

中小企業の実態を理解し経営とITの両面からサポートできるITコーディネータが橋渡し(マッチング)する

DX自己診断とDX診断アドバイス

DX自己診断とは？

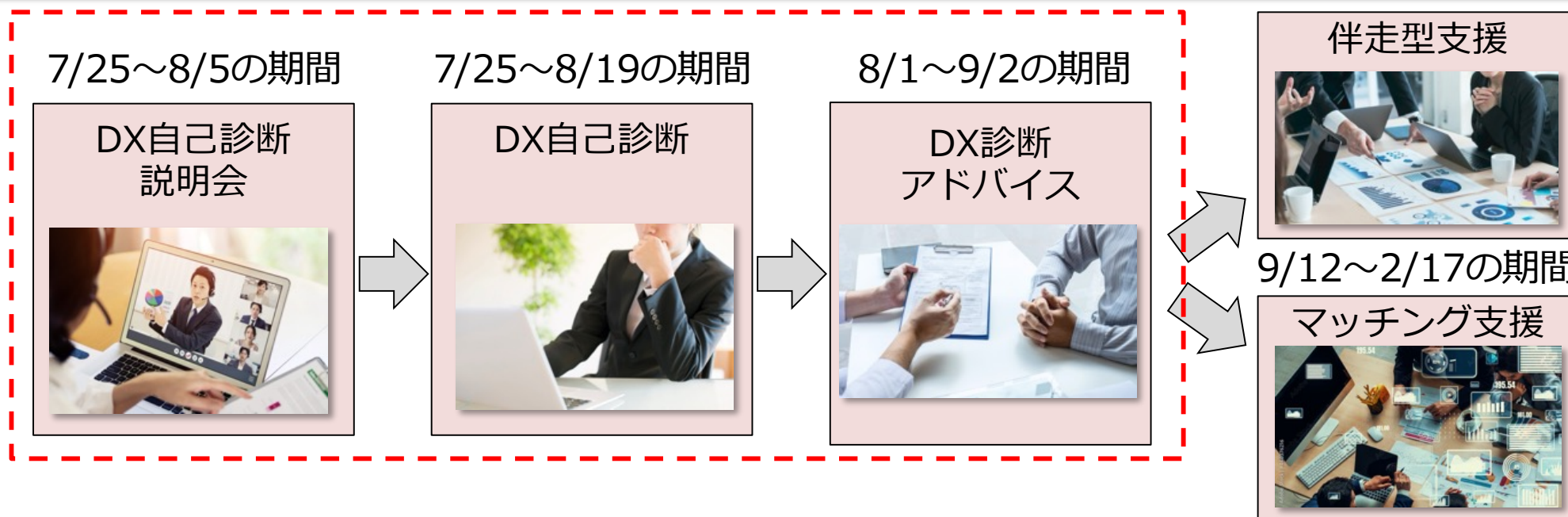
経済産業省、情報処理推進機構にて公開している「**DX推進指標**」をもとに企業の現状の把握とDX推進する上でのアクションを明確にする診断です。

DX診断アドバイスとは？

自己診断の結果をもとに専門のアドバイザーがアドバイスをを行います。

これによりわかること

企業のデジタル化状況を把握でき、DX推進するうえでのヒントが得られます
伴走型支援(DX計画作成)、マッチング支援を受ける準備ができます



■ DX推進指標とは

■ DX推進について

これまでの仕事の仕方や企業文化の変革までも求められるものであり、その実行のためには、「DXによって顧客視点でどのような価値を創出するか」、「なぜ、その改革が必要なのか」、「DXを実現するために経営の仕組みをどう作り変えるのか」等、経営幹部、事業部門、DX部門、IT部門など関係する者が現状や課題に対する認識を共有し、必要な打ち手を講じていくことが不可欠である

■ DX推進指標策定の背景

経営者や社内の関係者がDXの推進に向けた現状や課題に対する認識を共有し、アクションにつなげるための気付きの機会を提供するものとして策定した

■ DX推進指標の内容

各企業が簡易な自己診断を行うことを可能とするものであり、各項目について、経営幹部、事業部門、DX部門、IT部門などが議論をしながら回答することを想定しています。

経済産業省「デジタル経営改革のための評価指標（「DX推進指標」）を取りまとめました」から引用し要約

具体的には、以下の2つから構成されます。

(1) DX推進のための経営のあり方、仕組みに関する指標

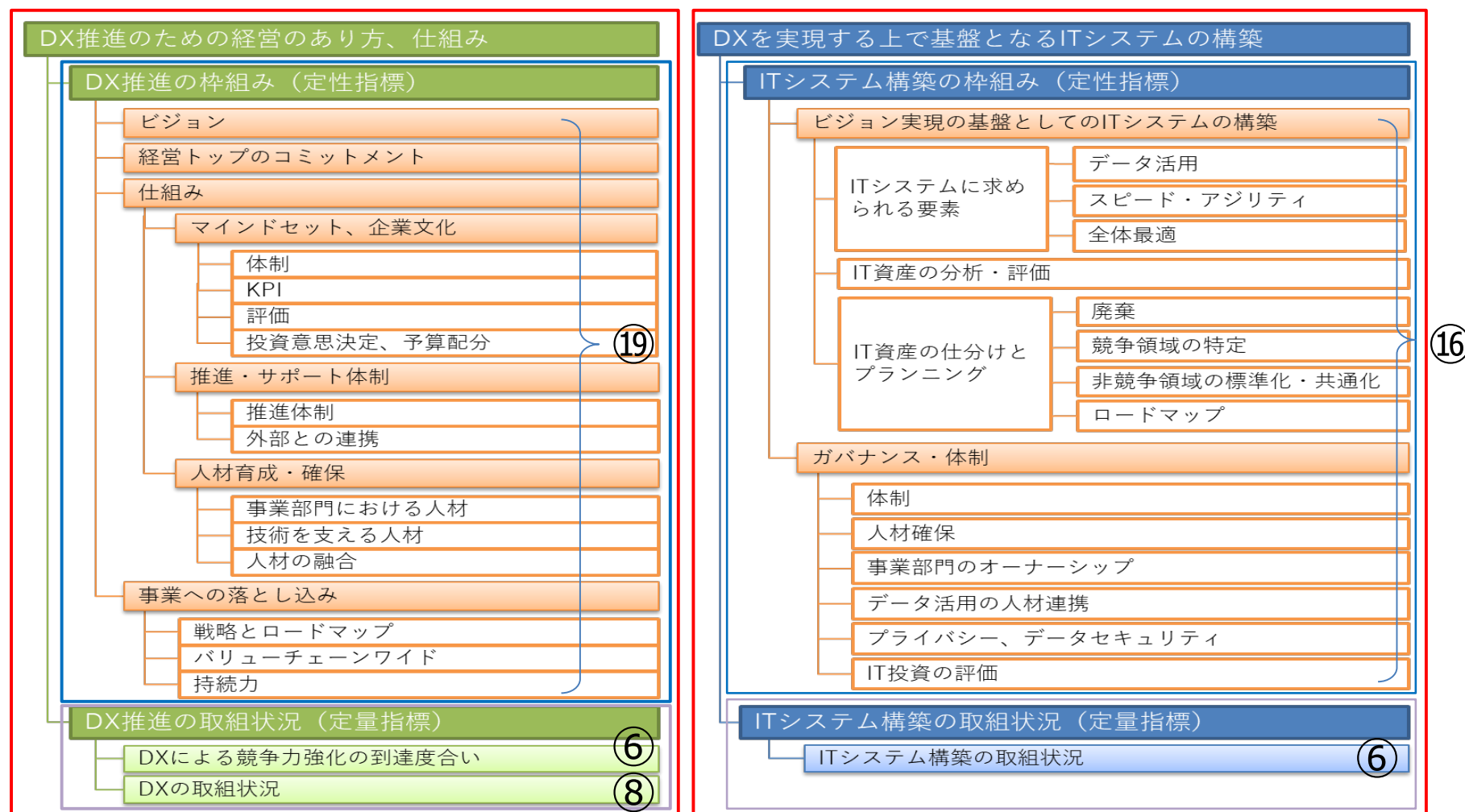
①DX推進の枠組み(定性指標):(19)

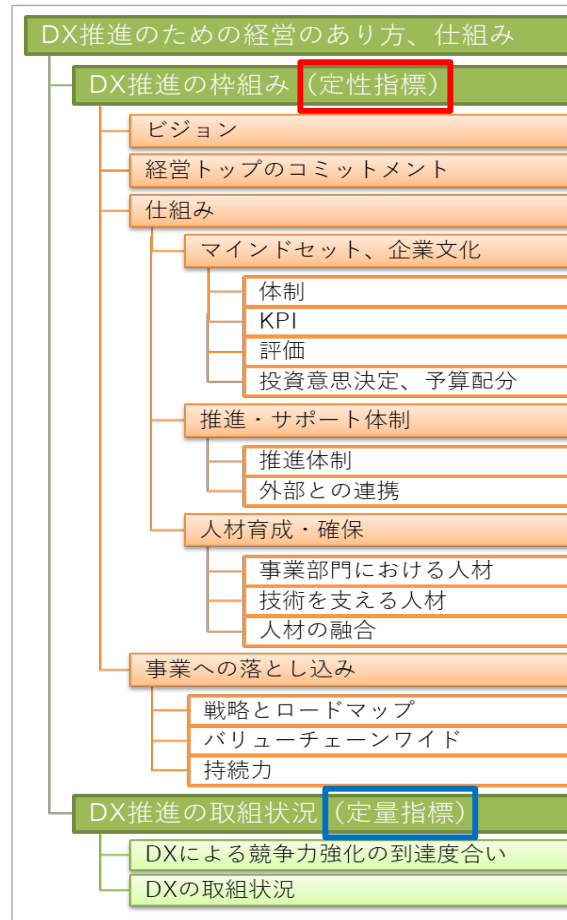
②DX推進の取組状況(定量指標):(6)(8)

(2) DXを実現する上で基盤となるITシステムの構築に関する指標

①ITシステム構築の枠組み(定性指標):(16)

②ITシステム構築の取組状況(定量指標):(6)





■ 定性指標 と 定量指標

・ 定性指標

成熟度を6段階で評価します。下表参照(成熟度)

・ 定量指標

具体的な数値で評価します。

例) 現状の人数と3年後の人数 など

■ キークエスションとサブクエスション(定性指標のみ)



・ キークエスション

経営者が自らが回答する(考える)ことが望ましい



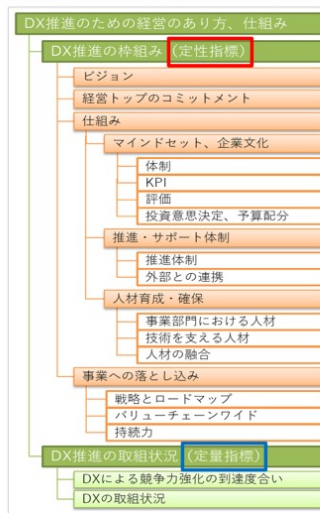
・ サブクエスション

経営者が経営幹部、事業部門、DX部門、IT部門と議論しながら回答する(考える)ことが望ましい

成熟度					
レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
未着手 (経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない)	一部での散発的实施 (全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施に留まっている)	一部での戦略的实施 (全社戦略に基づく一部の部門での推進)	全社戦略に基づく部門横断的推進	全社戦略に基づく持続的实施 (定量的な指標等による持続的な実施)	グローバル市場におけるデジタル企業 (デジタル企業として、グローバル競争を勝ち抜くことのできるレベル)

DX推進指標の説明

(構成説明)



■ 定性指標 と 定量指標

・ 定性指標

成熟度を6段階で評価します。下表参照(成熟度)

・ 定量指標

具体的な数値で評価します。
例) 現状の人数と3年後の人数 など

■ キークエスションとサブクエスション(定性指標のみ)

・ キークエスション

経営者が自らが回答する(考える)ことが望ましい

・ サブクエスション

経営者が経営幹部、事業部門、**DX部門、IT部門**と議論しながら回答する(考える)ことが望ましい

成熟度					
レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
未着手 (経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない)	一部での散発的实施 (全社戦略が明確でない中、部門単位での試行・実施に留まっている)	一部での戦略的实施 (全社戦略に基づく一部の部門での推進)	全社戦略に基づく部門横断的推進	全社戦略に基づく持続的实施 (定量的な指標等による持続的な実施)	グローバル市場におけるデジタル企業 (デジタル企業として、グローバル競争を勝ち抜くことのできるレベル)

定量指標の全項目の入力が難しい場合でも、現状値だけは必ず記入して下さい。
(目標(3年度)の値、算出方法／エビデンス等、アクション欄の記入が困難な場合は空白でも結構です)

経営者とは経営判断が出来る方です。
具体的には「目標(3年度)の成熟度」で設定した指標に対して責任をもって遂行できる権限がある方です。

DX部門やIT部門という部門が存在しない場合は、そのような役割を果たせる人を議論に加えて下さい。

自己診断のやり方とポイント

■ 自己診断フォーマット

①ダウンロード先

<https://www.ipa.go.jp/ikc/info/dxpi.html>

②フォーマットの説明

・Excelファイル

「DX推進指標」自己診断 フォーマット ver2.3

データの収集に関するご協力のお願い

各社の自己診断結果については、独立行政法人情報処理推進機構（以下、IPA）において、収集されたデータに基づき各社の診断結果を総合的に分析し、全体データとの比較が可能となるベンチマークを作成します（※）。このベンチマークを活用することにより、各社が自社と他社の差を把握し、次にとるべきアクションについて理解を深めることが期待されます。ベンチマークは以下のWebサイトから診断結果をご入力いただいた企業に対してご提供いたします。

【DX推進指標自己診断結果入力サイト】 <https://www.ipa.go.jp/ikc/info/dxpi.html>

※IPAは、上記サイトにて取得したデータを、上記ベンチマークや統計資料の作成・統計処理手法の開発等、関連制度・業務の改善や施策立案等の目的のために利用します。また、DX推進指標の策定者である経済産業省及び、関連するDX認定制度やものづくり補助金制度等の推進・支援・運営主体に提供する場合もあります。因みに、公開不可の指示ある場合を除いて協力いただいた企業名を公表しますが、その場合であっても回答内容自体は公表しません。なお、個人情報については、個人情報保護関係諸法令に従って適切に取り扱います。上記の他、回答内容などについてIPAから確認・質問等させていただく場合や、先進事例の収集等を目的にヒアリングを依頼させていただく場合がございます。

無効回答基準について

IPAにてベンチマークを作成するにあたって、無効な回答として扱うデータの条件を無効回答基準として定めております。以下に該当するデータは、DX推進ポータルからの提出が出来ず、またベンチマーク作成のためのデータから除外させていただきますので、ご承知おきのほどよろしくお願いいたします。

- ・必須項目に未入力箇所があるもの
- ・定性指標の目標が現在より低い項目があるもの

なお、必須項目を回答する際には、経済産業省が公開している『「DX推進指標」とそのガイダンス』をご確認ください。

【「DX推進指標」とそのガイダンス】 <https://www.meti.go.jp/press/2019/07/20190731003/20190731003-1.pdf>

1. 企業プロフィール

※：必須項目

法人番号	※gBizIDから取得するため入力不要	
法人名	※gBizIDから取得するため入力不要	
業種		
売上高規模		
従業員数規模		
連絡先	担当者氏名	※gBizIDから取得するため入力不要
	所属部署	※gBizIDから取得するため入力不要
	電話番号	※gBizIDから取得するため入力不要
	メールアドレス	※gBizIDから取得するため入力不要

中小企業基本法の「中小企業」に該当しますか？※
※中小企業の定義は以下をご確認ください。
<https://www.chusho.meti.go.jp/soshiki/teigi.html>

IPA Better Life with IT 情報処理推進機構

文字サイズ 標準 拡大 検索

・ IPAについて ・ お知らせ一覧 ・ サイトマップ ・ お問い合わせ ・ ENGLISH

HOME 情報セキュリティ 産業サイバーセキュリティセンター **社会基盤センター** 未踏/セキュリティキャンプ IT人材の育成 情報処理技術者試験 情報処理安全確保支援士試験

HOME > 社会基盤センター > DX推進指標 自己診断結果入力サイト

本文を印刷する

社会基盤センター 新たな潮流の発信

DX推進指標 自己診断結果入力サイト

最終更新日：2022年6月3日
2019年10月25日公開
独立行政法人情報処理推進機構
社会基盤センター

社会基盤センター

- IT社会の動向調査・分析、情報発信
- デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- 産業アーキテクチャの設計
- IoT製品/ITシステムの安全性・信頼性の確保
- 地域における取組みの支援
- データ利活用の推進
- スキル変革の推進
- 社会基盤センターについて
- 報告書・書籍・ツール・教材
- セミナー・イベント

■提出可能な自己診断フォーマットのバージョン変更のお知らせ

2022年6月3日（金）22時より自己診断フォーマットが更新されました。この更新に伴い、**自己診断フォーマットver2.3**（Excel:483KB）以外のバージョンでの提出が出来なくなりました。提出方法の詳細につきましては、以下をご確認ください。

DX推進指標 自己診断結果入力サイトについて

IPAは、2019年7月に経済産業省が公開した「DX推進指標」に対し、各企業の自己診断結果を収集・分析することを目的に「DX推進指標自己診断結果入力サイト」を公開しました。

DX推進指標の自己診断結果を入力いただいた企業には、自己診断結果と全体データとの比較を可能にするベンチマークなどによる分析結果を提供します。この分析結果を活用することにより、各企業が全体との差を把握し、次のアクションを検討することなどができます。自己診断結果の入力へのご理解とご協力をお願いします。

自己診断する企業

- 関係者が議論しながら診断を実施
- ベンチマーク活用による他社との比較
- 課題認識、対応策検討
- 今後の計画を立案

診断結果提出

ベンチマーク提供

IPA

- 診断結果の分析
- ベンチマーク策定、提供
- 分析レポートの作成
- 指標の改善

自己診断のやり方とポイント

DX推進指標の細かい説明は下記を参照して下さい

IPA Better Life with IT 情報処理推進機構

文字サイズ 標準 拡大 検索

・ IPAについて ・ お知らせ一覧 ・ サイトマップ ・ お問い合わせ ・ ENGLISH

HOME 社会基盤センター DX推進指標 自己診断結果入力サイト

本文を印刷する

社会基盤センター 新たな潮流の発信

DX推進指標 自己診断結果入力サイト

最終更新日：2022年6月3日
2019年10月25日公開
独立行政法人情報処理推進機構
社会基盤センター

■提出可能な自己診断フォーマットのバージョン変更のお知らせ
2022年6月3日（金）22時より自己診断フォーマットが更新されました。この更新に伴い、[自己診断フォーマットver2.3](#) (Excel:483KB) 以外のバージョンでの提出が出来なくなりました。
提出方法の詳細につきましては、以下をご確認ください。

DX推進指標 自己診断結果入力サイトについて

IPAは、2019年7月に経済産業省が公開した「DX推進指標」に対し、各企業の自己診断結果を収集・分析することを目的に「DX推進指標自己診断結果入力サイト」を公開しました。

DX推進指標の自己診断結果を入力いただいた企業には、自己診断結果と全体データとの比較を可能にするベンチマークなどによる分析結果を提供します。この分析結果を活用することにより、各企業が全体との差を把握し、次のアクションを検討することなどができます。自己診断結果の入力へのご理解とご協力をお願いします。

自己診断する企業

診断結果提出

ベンチマーク提供

自己診断結果の入力手順

STEP1 DX推進指標による自己診断

DX推進指標は、経営者や社内の関係者がデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進に向けた課題に対する認識を共有し、アクションにつなげるための気付きの機会を提供するものです。

本指標は、各企業が簡易な自己診断を行うことを可能とするものであり、各項目について、経営者、事業部門、DX部門、IT部門などが議論をしながら回答することを想定しています。

自己診断は、以下の「DX推進指標とそのガイダンス」をご確認の上、「自己診断結果入力サイト」の「自己診断結果入力フォーマットver2.3」をご利用ください。
以前のフォーマットでは自己診断結果を提出できませんので、必ず「自己診断結果入力フォーマットver2.3」に自己診断結果を記載してください。

・ [DX推進指標とそのガイダンス【経済産業省】](#)

・ [DX推進指標自己診断フォーマットver2.3](#)

「DX推進指標」とそのガイダンス

令和元年7月
経済産業省

目次

1 「DX推進指標」策定の経緯	4
2 「DX推進指標」の狙いと使い方	5
2.1 「DX推進指標」策定の背景と狙い	5
2.2 「DX推進指標」の使い方	5
2.3 「DX推進指標」策定に当たっての視点	6
3 「DX推進指標」の概要	8
3.1 「DX推進指標」の構成	8
3.2 定性指標における成熟度の考え方	9
3.3 定量指標の考え方	10
3.4 評価の仕方	10
3.5 回答方法	11
4 自己診断を支える仕組み	12
4.1 中立的な組織の役割	12
4.1.1 ベンチマーキング	12
4.1.2 先行事例の提供	12
4.2 アドバイザーの活用	13
5 各指標項目の解説（趣旨と留意点）	14
5.1 DX推進の枠組み（定性指標）	14
5.1.1 ビジョン	14
5.1.2 経営トップのコミットメント	16
5.1.3 仕組み	17
5.1.4 事業への落とし込み	24
5.2 DX推進の取組状況（定量指標）	26
5.2.1 DXによる競争力強化の到達度合いに関する定量指標	27
5.2.2 DXの取組状況に関する定量指標	28
5.3 ITシステム構築の枠組み（定性指標）	29
5.3.1 ビジョン実現の基盤としてのITシステムの構築	29
5.3.2 ガバナンス・体制	34
5.4 ITシステム構築の取組状況（定量指標）	38
6 「DX推進指標」本体（※別途、経済産業省HPでA3版を用意）	40
7 「DX推進における取締役会の実効性評価項目」について（参考）「見える化」指標、診断スキーム構築に向けた全体会議、WG開催実績	45

③記入内容（定性指標）

各項目毎に以下を記入します

(1)現在の成熟度

(2)目標(3年度)の成熟度

(3)なぜその成熟度と判断したかの根拠、確認方法／エビデンス等(任意)

→後々にでも分かるように

(4)アクション欄(任意)

→何をすべきか？

具体的なアクションに
繋げるために



The screenshot shows a web-based form titled "DX推進のための経営のあり方、仕組み" (Management and Mechanisms for DX Promotion). The form is divided into several sections:

- Header:** "DX推進の枠組み（定性指標）" (DX Promotion Framework (Qualitative Indicators)). It includes a legend for "キークエスション" (Key Question) and "サブクエスション" (Sub-question).
- Section 1: ビジョンの共有 (Vision Sharing)**
 - Question: "1. データとデジタル技術を使って、変化に迅速に対応しつつ、顧客視点でどのような価値を創出するのか、社内外でビジョンを共有できているか。" (Using data and digital technology to respond quickly to change while creating value from a customer perspective, are you able to share your vision internally and externally?).
 - Response area: "未入力箇所があります！" (There are missing input fields!). It shows two yellow boxes: "現在*" (Current) and "目標（3年後）*" (Target (3 years later)), connected by a green arrow.
 - 【成熟度レベル】 (Maturity Level): A table with 6 levels of maturity, from "レベル0: ビジョンが提示されていない。" (Level 0: Vision is not presented) to "レベル5: ビジョンがグローバル競争を勝ち抜くことができるものとなり、全社での取組が、グローバル競争で勝ち抜くとの認識の共有の下に、持続的に進められている。" (Level 5: Vision becomes something that can win global competition, and the organization's efforts are sustained under the recognition of shared vision for winning global competition).
- Section 2: なぜその成熟度と判断したかの根拠、確認方法／エビデンス等（任意）** (Reasons for the maturity level and judgment, confirmation method/evidence, etc. (Optional)). This is a large text area for providing evidence.
- Section 3: アクション欄（任意）** (Action column (Optional)). This is a large text area for describing actions to be taken.

③記入内容（定量指標）

各指標毎に以下を記入します

(1)現在の値

(2)目標(3年度)の値

(3)算出方法／エビデンス等 →後々にでも分かるように

(4)アクション欄 →何をすべきか？

具体的なアクションに繋げるために

DX推進の取組状況（定量指標）						
● DXによる競争力強化の到達度合い						
分類	指標 (例)	説明	現在	目標 (3年後)	算出方法／エビデンス等	アクション欄
研究開発						
	製品開発 スピード	タイム・トゥ・マーケット (新製品開発における研究開発の 予算措置から市場提供まで)				
マーケティング						
	新規顧客 獲得割合	新規顧客からの売上の割合、新製 品からの売上の割合。経年変化に より着目。				
調達・購買						
	支出プロセスにお ける効率性	統制下にある支出の割合、定型の 購買サービスを用いた支出割合。				

④記入方法

■定性指標

- (1) 経営者の方がキークエスチョンを一通りお答え下さい。
- (2) 経営者がお答え下内容を経営幹部、事業部門、DX部門、IT部門に説明と議論をしてキークエスチョンを決定して下さい。
- (3) 全員でそのサブクエスチョンを議論をして決定して下さい。

■定量指標

全員で議論をして決定して下さい。

ポイント

- (A) 良い点数を取ることが目的ではありません。
現状や課題を認識し共有し必要なアクションにつなげる事です
- (B) ビジネスモデルそのものを評価するものではありません。
企業の変化への対応力を可視化する事です
- (C) 中分類・小分類毎にまとめておくとよいです。
「だから〇〇〇が必要ということ」「総じて〇〇〇ということ」

⑤自己診断フォーマットの提出

- ・ ITコーディネータ協会事務局までメールで提出していただきます。
メールアドレス（ nw@itc.or.jp ）
- ・ 提出の際に以下のご希望内容を教えて下さい。
 - (1) アドバイス方式（対面 or ZOOM等のオンラインのどちらか）
 - (2) アドバイス日時候補（返信日から9月2日までの間）
- ・ アンケート結果もご記入いただき提出をお願いします。

詳しくは、自己診断お申込み後に配布する資料に記載してあります。

ITCA
ITCoordinators Association

NOW!

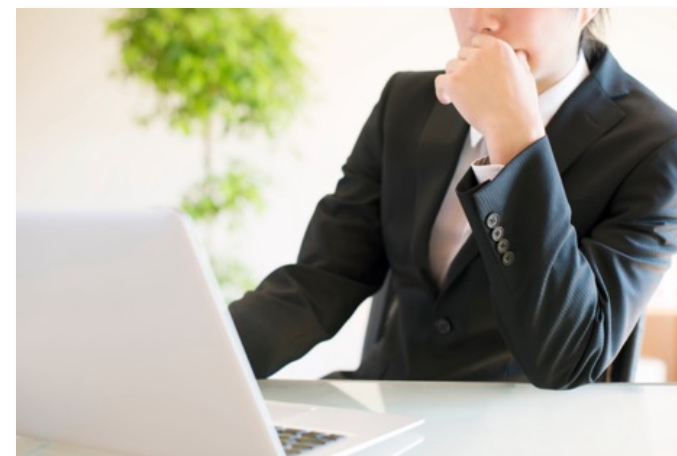
DX診断アドバイザーからアドバイスを受けて頂きます

■ 申し込み方法

<https://pro.form-mailer.jp/fms/d64baf36261820>

上記URL、下記QRコードから申し込みをお願いします

（1 組織として代表者のみのお申し込みで結構です）



入力内容

- ・ 名前【必須】
- ・ 会社名・組織名【必須】
- ・ 部門名・役職
- ・ メールアドレス【必須】
- ・ 申し込み地域（茨城 or 長野）
- ・ 事務局への連絡内容等

■ アドバイスのやり方

- ・ 1社あたり1回
- ・ 時間は基本的に3時間程度
- ・ 対面もしくはオンラインで行います
(感染状況と企業様のご希望による)
- ・ 送って頂いた「自己診断フォーマット」を元に、各項目に対する詳細ヒアリングとアドバイスを行います。
- ・ アドバイスのポイントは概ね以下の通りです。
 - ・ DX推進のためには弱いところ～延ばすべきべき項目
 - ・ 企業として目指すべき姿の形成に向けたアドバイス
 - ・ デジタルトランスフォーメーション以前のデジタイゼーション、デジタライゼーションに対するアドバイス など



本事業に関するお問合せ先

■ ITコーディネータ協会

nw@itc.or.jp



■ ITコーディネータ茨城

dx2022@itc-ibaraki.com



■ 長野県ITコーディネータ協議会

info@itc-nagano.jp

